

令和3年度 横浜旭陵高等学校 第3回学校運営協議会

1. 日時 令和4年3月12日(土) 10:00~12:00
2. 場所 県立横浜旭陵高等学校 B棟1F 多目的室
3. 出席者 学校運営協議会委員:10名
小玉敏也委員 中野保弘委員 渋谷八郎委員 佐久間桂一委員 久保良法委員
大和田伸也委員 梅木博志委員 海川由美子委員 前田悟委員 小坂校長

本校職員:10名

川島副校長 野澤教頭 稲垣総括教諭 大久保総括教諭 難波総括教諭
浦野総括教諭 高澤総括教諭 澤口教諭 本田教諭 東南教諭

4. 内容

(1) 校長あいさつ

本日は、お忙しい中、ご来校いただきありがとうございます。

まん延防止重点措置が続いており、10月末より県立学校は時差通学を継続しながら通常授業を行っております。本校でも引き続き、登校時間を10分遅くして9:10に1校時を開始し、本来は100分授業のところ、90分授業を行っています。

今年度の入学者選抜につきましては、残念ながら17名の定員割れを起こし、現在、二次募集での入学者選抜を行っています。10日に学力検査と面接を行い10名が受検しました。令和4年度入学生は、231名の定員に満たない状況です。また、新たに始まった在県外国人特別募集は、定員7名に対し志願者が3名でしたので、入学も3名となります。

今年度、全日制の県立高校の入学者選抜では約1500人の欠員が生じました。それによる二次募集で志願した生徒は約200人です。結果的には県全体では約1300人の欠員が生じています。定員割れの原因は、国や県の補助により私学の学費の実質無償化が進んだことです。また、広域通信制高校へ進学する生徒が増えたことが主な原因だと思われまます。今後、より一層、県立高校はそれぞれの特色やスクールポリシーを明確に示し、それに応じた教育活動を実践していかなければいけません。本校の学校説明会でも特色や本日報告するスクールポリシーの内容は伝えてきたつもりですが、次年度は更に工夫しより適切に中学校や中学生に理解してもらえらる広報や情報発信を行いたいと思います。

3月16日には卒業式が行われます。感染拡大防止の為、委員の皆さんをご来賓としてご臨席いただくことは、残念ながらできません。皆様のご理解とご協力に感謝いたします。式は、卒業生196名と送辞を述べる在校生1名のみで、保護者の方につきましては、事前予約制で卒業生1名につき1名のみ参加とし、卒業式を行います。

本日は、グループ・年次・教科の本年度の年間目標に対する評価を報告させていただきます。11月に報告いたしました「スクールポリシー」については、県教育委員会との協議が終わり、完成したものを確認いただきたいと思ひます。また、ICT利活用授業研究推進校としてのまとめの年でもあり、この後、大久保総括教諭より報告をしてもらひます。

本日は、それぞれのお立場から忌憚のないご意見をいただき、次年度の学校目標や学校運営に生かしていきたいと思ひます。本日はよろしくお願ひいたします。

(2) グループ・年次・教科の本年度の年間目標に対する評価

○研究開発グループ 稲垣総括教諭

当グループは、授業改善が大きな柱になっています。

春から授業見学月間を実施しています。10月から11月にかけての働きかけの結果、若干参加延べ人数は増えましたが、参加増に向けてより一層の働きかけが必要であると考えています。

また、生徒による授業評価が年2回あります。最近では校内のWi-Fiを使って、生徒がスマホから入力するという形をとっており、今年はかなり定着してきました。授業評価に限らず他の場面でも、すぐにネットワークを使った操作ができるように生徒は成長してきたと感じています。

資料4「令和3年度第2回生徒による授業評価」集計結果について(ご報告)、に関して、全体平均、評価の4・5に該当する比較的肯定的な評価、それから評価の1・2に該当する否定的な評価につきまして、これらを第1回と比較した資料を提示しています。あくまでも全体としての評価ではありますが、第1回のと比べて2.5ポイントから4.5ポイントほど増加しています。前期の「生徒による授業評価」の結果を受けて、職員が授業改善に取り組んだ結果と捉えています。

本校は若い教員も多く着任しており、4月、6月には校内研究会という形での働きかけも行いました。

ICT利活用授業の研究授業を11月に実施しました。職員が様々な取り組みを実践して、さらにその後、全体協議も実施しました。今後に向けての課題が明確になり、その後の取り組みに繋がっていると考えています。

資料5「ICT利活用の授業アンケート調査結果」というものがございます。ICT利活用授業を受けた生徒の割合が、昨年度・一昨年度と比べてどう変化しているかということについて、生徒の回答を見ますと値が減少しています。このことは事実として受け止めなくてはなりません。ただ、この結果については、「ICTの授業とは何か」という部分について、「対面授業においてタブレットやクロームブックを使用していること」などといった、アンケート実施時の説明が不足していた面があったのではと感じています。

一方で、ICTを活用した授業において「1. 楽しく学習できたと思いますか?」「2. 積極的に授業に参加することができたと思いますか?」「3. 授業に集中して取り組み嬉しかったと思いますか?」「4. 学習した内容をもっと調べたいとおもいますか?」という項目については、高い水準が維持されています。職員の日々の努力の賜物と受け止めております。

資料の「その他の部分の回答(まとめ)」について、「16. コンピュータなどを使うと授業がスムーズに進むと思いますか?」「17. コンピュータなどを使った授業は生徒にとってわかりやすいと思いますか?」「18. 授業で先生がコンピュータを使って画像などを見せたりするのは、学習に役に立つと思いますか?」については、80%程度以上を維持しています。様々な画像を提示することなどが深い学びに繋がっていると捉えています。

11月の研究授業で、ICTの指定校としての取り組みはほぼ終わりましたが、現在、研究集録を作成しています。いずれ郵送でお手元にお届けします。もうしばらくお待ちください。

今年度は、プロジェクターとスクリーンを各教室に常設することがさまざまな予算措置によって実現しました。保管してある場所から職員がその都度持ち運ぶ必要がなくなりました。これによって来年度はICTを活用した授業展開がますます発展し、促進されるという期待があります。

○学事情報グループ 大久保総括教諭

2月15日に行われた共通選抜で採点の結果について、県に再点検を提出しましたが、本校は採点ミスなしということで連絡をいただきました。今年度も様々なことはありましたけれど、ミスなくここまで進めることができました。

特に二次募集が、ちょうど年度末の成績処理と時期的に重なるところでもありましたので、そういうところでミスがないようにということでもかなり配慮を要しました。成績処理の方もミスなく、昨日無事卒業判定会議ができたという状況です。

資料3「グループの校内評価」のうち「学事情報」の「課題改善方策等」の中に「Co-Study LAB.における学習支援」という文言があります。これは旭陵高校の中で一つの教室を、自由に勉強できる部屋にして、そこにサポートティーチャーの先生に常駐していただいて、生徒の学習支援を行うという継続的な取り組みです。この報告は「2月末までのサポートティーチャーの活動」という項目で、資料6にございます。

今年度は昨年度から1.6倍、延べ1758件という生徒の利用件数がありました。本当に基礎基本のところではわからないという生徒のサポートから、上級学校に進学するための受験指導まで様々な分野でサポートをしていただいています。また生徒が教室に来ないときには、チームティーチングという形で授業に入らせていただいて、授業内でもサポートしていただきつつ、1年間活動をしていただきました。中学校のときに勉強に苦手意識を持った生徒がたくさん入学はしていますが、ここでサポートティーチャーの先生に学習支援をしていただいているのは、よく見かける光景でして、そういう形で本当に、成果を出していただいています。来年度以降も、このCo-Study LAB.での学習支援をお願いし、生徒にもより一層の呼びかけをしていきたいと考えています。外国につながりをもつ生徒も多く入学をしており、また来年度はさらに在県の特別募集で入学する生徒もいます。そういう生徒たちもこちらでサポートを受けています。在県特別募集で合格した生徒の支援をお願いする形で、今打合せを行っているところです。

次に教育課程に関しまして、ようやく来年度入学する生徒の教育課程が出来上がりました。しかし、県教育委員会は、学年制の学校を視野においた教育課程編成をどうしても本校に求めておりました。本校は単位制の学校ですので、その部分でどうしても教育委員会と見解の相違があり、協議を行う部分が非常にたくさんありました。そういう中で校長先生にも働きかけをしていただいて、ようやく本校の生徒のニーズに合うような教育課程編成ができたと思っています。ただ令和4年度、令和5年度は現行の教育課程の授業を受ける現1年生・2年生がおりますので、新入生と現行のカリキュラムの生徒たちが授業の中で混在する形になります。評価自体も、現在の教育課程は4観点や5観点で観点別評価をするのに対して、新教育課程では3観点で評価をします。来年度は、混在していることによるミスがないように成績処理をすることも非常に大きなテーマだと考えています。今年度ミスなく様々な

ことを終えてまいりましたが、これで安心することなく、また来年度に向けて新しいことがミスなく進められるように、また気を引き締めていきたいと考えています。

○進路支援G 難波総括教諭

本校では「キャリアの時間」として、月曜の午後に探究学習を行っています。今年度は、卒業生を25名ほど招いて、各分野（職種、学校など）の少人数座談会形式で進路説明会を実施しました。

私が担当して4年目になりますが、毎年少しずつではありますが、手を入れてより生徒の進路意識が高まるような企画を実施してきました。来年度以降も取り入れていきたいと考えています。やはり生徒たちは、卒業生の言うことは、非常によく聞きます。非常に真剣にメモをとって、目を光らせて聞いています。その辺を見ていると、ちょっとジェラシーを感じるというか、これだけ話を聞けるなら普段からもっと話を聞いてほしいとは思っています。そういった意味でも効果があるので、また来年さらに充実させていくつもりです。

資料7に卒業生の進路概況があります。昨今、文科省による入試の厳格化がすすみまして、その結果いわゆる玉突き現象が起きて、なかなか合格しにくい状況等が出ていました。3年目に入ってそのあたりのところは落ち着いてきたと考えています。2, 3年前にはなかなか入れなかった学校から、今年度は生徒の頑張りも相まってかなり多く合格しています。中でも4年制大学では総合型で5名、一般受験でMARCHレベルの学校に合格した生徒が増えました。生徒自身が非常によく頑張りました。先ほど大久保総括教諭からサポートティーチャーの話がありましたが、朝7時ごろからサポートティーチャーの部屋で勉強しているような生徒の姿がありました。そういった意味では、着実に前に進めている状況です。

他の受験についても、ここ数年、もう一步上の学校、自分の受けられる学校よりもワンランク上の学校を目指す生徒がいます。全員についてというわけにはいきませんが、個別の面談の中で、ここじゃなくてこっちを受けたらどうかと勧めてみます。すると、自分に自信がなく、無理だろうと自分でレッテルを貼ってしまっている生徒が、本校では少なくありません。ですから、大丈夫だよとバックアップした結果、先ほど申し上げたように大学の状況も非常に落ち着いてきたこともあり、最終的には合格している生徒もいます。そういった形で、進学にしても就職にしても前向きに活動できるフォローアップをしてきましたし、今後より上を目指していきたいと考えています。

一方で、背伸びをやってしまった学校等で、残念ながら授業についていけないという状況もあります。四年制大学進学者に多いのですが、入学後、少し成績が芳しくない生徒もやはり散見されます。今年度は試験的に、先ほど申し上げた少し上の学校に頑張った生徒に、今のこの機会を利用して、学び直しの基礎的な数学や英語のプリントを出すなど進学先での学びを視野に入れて支援しています。グーグルクラスルームを利用したやりとりで採点するという形態により実施しています。詳細な解説をすることはできませんが、勉強する習慣を途切れさせることなく定着させるような形で、3～4名の生徒が取り組んでいます。

また、音楽の職員に協力いただいて、保育系進路決定者が、今ピアノの練習に取り組んでいます。この生徒はピアノがもともと弾けないことと、上の学校を目指したことから、週1で、音楽室でピアノを教えてもらっています。このような取組みをもう少し広い範囲で次年度以降やっていければと思っています。

最後に就職関係です。前回は申し上げましたが、今年は昨年に増して厳しい状況になっています。未定者29名と資料には記載がありますが、ほとんどが就職を希望していますが自分の希望する職種、会社がないという生徒がほとんどです。若干名ですが、まだ何も決まっていない生徒もいますが、卒業後に自ら活動をして就職を目指す傾向がほとんどですので、その辺のフォローもしていきます。

今年度は、不適切事案が一件発生し、内定に関して若干トラブルがありました。どうしてもこういう状況ですと、リーマンショックのときもそうだったのですが、買い手市場として、企業の方が上から接してくるということが見られます。今後ハローワークとも相談しながら、改善を求めてまいります。その生徒は、まだ具体的には活動中ではありますが、今後内定が取れるのではないかと考えています。就職に関して、次年度はさらに厳しい状況が予想されるので対策が必要です。

○生徒成長支援グループ 副校長（山森総括教諭 欠席）

グループリーダーの山森が欠席のため、副校長からご報告申し上げます。昨年度の個別指導の件数は、一昨年度に比べて大幅に減少していたということですが、これはコロナ禍での生徒の登校日数が非常に少なかったということに起因していると考えられます。減った昨年度から見て今年度については、9月に分散登校がありましたが期間としてはひと月いかない程度でしたので、昨年度と特別指導の件数は同程度でした。全体的に、若干落ち着いてきていると考えています。そんな中で何かあれば迅速に対応できるように、年次団を中心に動いています。

特別指導の内容は、SNS関連の事案が多かったといえます。軽い気持ちで他人を誹謗中傷してしまったり、あとは不適切な画像をアップしたりする自撮りのつもりで撮ったものだけでも他の人が写ってしまっている、そういう事案がすごく増えています。ホームルーム等であったり、集会の場であったり、また生徒指導通信等を発行して、その中で注意喚起を行っていますが、まだ十分浸透していないという状態です。本校は年次ごとに4階・3階・2階と3ヶ所職員室がありますが、各職員室で情報共有を積極的に行うとともに、年3回、情報交換会議を行って、全職員で情報を交換して共有しています。また、年2回、いじめ問題対策会議を開催して、早期に問題を把握し、速やかに対処できるような情報共有を行っています。

教育相談に関しては、担任が養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、教育相談コーディネーターと連携を取ることができました。また、外部、例えば児童相談所とも連携を図りながらの対応をしてきました。

管理職として、地域の方から連絡を頂きますが、近隣のバスの乗車マナー、喫煙について、そういう指導を度々いただいている。そういうところも、担当に指導を入れて、迅速に対処しています。特に、ズーラシアや白根の里から一報入れていただいたりしています。

○自主活動支援グループ 浦野総括教諭

自主活動支援グループは、学校行事、地域連携活動が主な業務です。

部活動については資料3「グループの校内評価」の「達成状況」欄にもある通り、春の段階で入部率が22%でした。増減が激しく、入ったり出たりがあるのですが、春の段階では例年このくらいです。25%の壁があって、なかなか超えられません。しかし、去年は4月始まったところで学校への登校がなかったのも、それに比べれば今年の1年生は元気もいいし、部活動に加入をしている生徒は多いと思います。例えば、具体的にはサッカー部などが、今までなかなか軌道に乗らなかったところに1年生が入ってきました。まだ11人になっていませんが、合同で試合をしたり活動したりということが行えるようになっていきます。一方で野球部は3年生が引退して、部員がいなくなりました。このように、あっちが活動を始めればこっちができない、そういう状況になっています。

今、まん延防止措置の中で、部活動の活動時間は90分以内にするよう言われています。言い方はよくないかもしれませんが、このように具体的な数字をもって、いろいろ規制がかかってくるのは、今までは緊急事態宣言のときでした。しかし、今回のまん延防止措置ではこのような具体的な数字での規制が入ってきているので、まん延防止措置等とは言われつつも、部活動にとって見ると、緊急事態宣言下と同じ状況で活動しているということになっています。

また、様々な行事は、本当にコロナに振り回され、日程変更とか、中止であるとか、そういったことが続出しています。資料にもある通り、芸術鑑賞教室に関しては、代替の日が12月に設定できたので実施できましたが、9月に行っているレクリエーション大会や地域貢献活動は、実施ができませんでした。

地域貢献活動に関してはまた梅木委員や大和田委員からアドバイスをいただければと思うのですが、コロナ禍でないときは、本校生徒約30人がそれぞれの施設においていろいろな体験をさせていただきました。9月に実施といっても準備を5月頃から始めていかなければいけない行事なので、今の状況を考えると通常通りをお願いするのはちょっとまだ厳しい状況と考えています。

レクリエーション大会は年2回あって、ついこの前の月曜日と火曜日に感染防止対策をした上で実施しました。体育館の中には、各年次の半分ずつを入れて、縄跳びで八の字で回るようなレクリエーション大会を実施しました。本当に短い時間だけでしたが、見ているとそれなりに楽しくて、クラスによっては声を出しながら楽しそうにやっていました。

それから、ボランティア講演会は先週の水曜日に行いました。こちらは1年生の生徒全員が参加しています。ボランティアをやりたいというよりは、地域にこういう施設があって、こういう活動をしているということをもっと知ってもらって、そこから次の段階でボランティアに参加するという、まず一番のベースのところを知ってもらってということをお願いしてお話をいただきました。それから、ボランティアに関しては、ボランティアガイドンスというものを4月と7月に毎年行っており、こんなボランティアがあるという話をしています。来年度、1年生に関しては希望者というよりは基本的に全員に聞いてもらおうと計画しています。

文化祭(旭陵祭)に関して、資料8に生徒のアンケート結果がございます。今の卒業年次生は1年生のときに2日間開催で文化祭をしました。金曜日、土曜日の二日間で、土曜日は一般公開するというのが、何も規制がない時の開催形態です。今の卒業年次生は1年次のときにはそれを経験して、その上で2年次と3年次は公開なしで平日の1日だけ開催という形になっています。今の19期生と20期生は1日開催で、一般の方が入ってこないのが普通だというふうに思っている生徒たちです。そういったところが影響しているかと思っていますが、質問項目の1つ目と2つ目、「積極的だった」とか「楽しかったかどうか」は卒業年次生が少なめに出ているのかと思っています。逆に、最後の項目である「プロモーションビデ

オのライブ配信」という項目ですが、そういう制限がある中で、なんとか盛り上げるということができないか、ということで今年度初めて取り組みました。まず、参加団体にコマースミルみたいなビデオを作ってもらいました。体育館で発表しているダンス団体があるのですが、これも体育館に多くの人数を入れられませんので、体育館で発表しているものを、学校で2ヶ所ほど場所を選定し、ライブ配信しました。つまり、体育館でなくてもそれを見ることができるという形を今年は試験的に行ったところです。その項目において、コロナ以前の文化祭形態と現在の形態の両方を知っている卒業年次生のアンケート結果に関して、他の年次に比べて「面白かった」が高めに出ているのが、ちょっと面白い結果と感じています。

レクリエーション大会など各クラスの委員を動かす活動においては、数年前は委員に招集をかけても、なかなか全員は集まらないというような状況がありましたが、最近では、体育委員を集めても、文化祭委員を集めても、かなり集まるようになってきています。さらに、何年何組が来ていないと校内放送をかけると、とりあえず全員来るような形にはなっています。おそらく学校のことだけではなく、それより前の段階の指導というか、中学校のときからいろいろと手をかけてもらっているのだろうということを感じています。

○総務管理グループ 高澤総括教諭

総務管理グループは、学校説明会、防災関係、環境整備、そして卒業式・入学式などの行事の企画運営をしています。

先ほどの自主活動グループの方からもありましたように、総務管理グループでも学校説明会では新型コロナに本当に振り回されました。8月28日に第1回学校説明会を予定していましたが、2日前に中止を決定してそこから電話をする、というような感じでバタバタとしていました。第1回学校説明会を11月に延期して、10月から毎月、10月23日、11月13日、12月11日と3回開催して、今年の1月8日に最後の第4回学校説明会を何とか行いました。コロナ禍なので、どの座席に誰が座ったかというようなところをチェックしながらでしたので、非常に煩雑な形でした。旭陵高校を中学生にPRしたいという強い気持ちで、全職員で協力して、何とか4回、説明会を行うことができました。申し込みについては、ホームページを利用して申し込む形をとりました。それ以外に、中学校への資料送付や中学校訪問などを合わせて行ってきました。

次に、防災学習につきましては、昨日は3.11から11年目の日であり、記憶を風化させないという趣旨で、YouTubeに上がっている動画の中から、11年目に関する防災や津波の動画等を3本見て、1本ずつ簡単に振り返りをするといったスタイルで防災学習を実施しました。

教員の不祥事防止に関しましては、職員会議の後、定期的に県からの資料をもとに簡単な研修をするよう言われています。夏にはロールプレイを用いた教職員の事故防止研修を実施しました。

教育環境につきましては、PTAからの支援をいただいてコピー機などを購入させていただき非常に助かりました。

また、先ほど校長、副校長の方からもありましたが、コロナ禍であり卒業式に関しては来賓の招待を控えさせていただきますのでよろしくお願い致します。

入学式以降は、体育館の改修工事が行われます。現在は、トイレの工事等施設の補修工事が入っています。今後は、さまざまな機器の有効利用に向けた管理を引き続きやっていきたいと思っています。

・・・休憩・・・

(2) 各委員からのご意見

○小玉委員

毎回来させていただいて、大変勉強になっています。新型コロナの問題でどの学校も大変です。いつになったら収束するのかと思います。しかし、こちらはICTに取り組んでいることで相対的にコロナの影響が緩和されているのではないのでしょうか。また逆に、コロナがあったからこそ、ICTの活用が促進された面もあるのではないのでしょうか。コロナ禍という厳しい状況下ではありましたが、生徒にはプラスだったことと思います。

あと2つ、申し上げます。一つは進路です。いろいろな入試に対応して支援しているというお話がありました。社会全体で子供の数が減り、その影響がでています。本学においてもその影響はあります。今年度は1学部から総合型選抜を実施したいとの申し出がありました。総合型選抜においては、高校時代、何に取り組んできたのか、それを大学側は判定材料にしていこうとしています。今後一層、ただ教科の点数を何点とったというだけではなく、文化祭で頑張ったなど、どれほど高校生活を存分に謳歌したかが重要になってきます。

また、「Co-Study LAB.」が印象に残っています。いろんな学習の困難を抱える子が来るその部屋に、非常勤の先生がいてくださるのですね。生徒たちには学習だけでなく、様々な生活面での悩みがあるでしょうが、そこをフォローできる場でもあるのだと推測します。旭陵高校で生徒の居場所を意図的に作り出すことで、学習課題を解決するだけでなく、生徒指導もできるのではないかと感じています。

私に関わっている別の高校では、なかなか教室に入れない生徒に向けてNPO法人が一教室を運営しています。そこでは、お茶をしてもゲームをしても構わない、というスタイルですが、将来的には教室に戻るための取り組みであり、それにより不登校の数がずいぶん改善したと聞いています。私達自身の高校時代よりも今は多様な生徒がいる中で、こちらでもそのような多様な生徒に対応している、というお話が聞けて大変勉強になりました。ありがとうございました。

○佐久間委員

ICTの評価結果・分析結果を見て、非常に参考になりました。以前小坂先生から、いつでもICTが使える環境を作った方が、子供たちはすぐ慣れるのではないかというアドバイスをいただきました。ChromeBookが1人1台ありますので、常時使えるような形をとりたいと考えています。

中学校では学校文化として、今までの考えを踏襲しがちですので、新しいものをすぐに取り入れるって結構難しいです。ですから、このように結果が数値で出ているのを見ると、そうなのだっていうのは非常にわかりやすいです。この結果を使わせていただきたいというふうに思っています。

また、定員割れすると、学校運営に影響あるものなのか教えていただきたいと思います。

○小坂校長

校長としてはあまりありませんが、先生方如何ですか。

○大久保総括教諭

いい面と言ったら変ですが、1クラスの人数ができるだけ少ない方が目が行き届きますので、そういう意味で言えば今回定員割れをしてしまいましたが、そうすると逆に1クラスの人数を減らすことができます。そうすると、生徒一人一人に目をかけられるというか、細かく指導することができるという思いはあります。一方で、人数が少ないことで活気がなくなってしまったりすることはあります。あとはやはり入試業務をしていて感じるのは、先輩から後輩に「横浜旭陵高校、定員割れしたよ。」という、それだけの情報が伝わっていき、ネガティブな印象を持たれてしまうということがあり、私達は本意ではありません。でも、そういう生徒たちの「定員割れしたよ」という発言が、逆に、少ない人数で先生たちからすごく手厚くサポートしてもらえるのだと言ってもらえるような取組みをすることで、また今度は子供たちが先輩から後輩に、横浜旭陵高校は授業がすごくわかりやすくやってくれるのだよ、と言ってもらえるようになるといいと考えています。

○佐久間委員

今年の卒業生は、2年間の中学校での行事がほとんどできていない状態で卒業しています。どこの学校もそうだと思います。ですので、行事で育てる部分、育つ部分というのが少し欠けているところもあるように感じています。特に友達関係、みんなと何かを作り上げようとか、そういった部分が少し欠けて卒業しているということもあるので、知っておいていただいた方がいいと思います。

○久保委員

出席させて頂く度に話をしていますが、コロナ禍という状況において、生徒たちへの指導を繋げていくためにすごく工夫されていること、大変苦勞されていることがわかりました。

説明の中で、生徒による授業評価という話がありました。これが旭陵高校独自の取組みなのか、県の高校全体の取組みなのかわかりませんが、素晴らしい取組みをされているんだなというふうに感じます。私どもの施設でも利用者からの声でそれを改善に結びつけていくというのは非常に大事なことで、やってはいるのですが、なかなか実現することも少なく、また厳しいご意見を頂くこともあります。こういうPDCAサイクルを回していくということが重要なことだと感じました。

意外だなと思ったことは、自主活動支援グループからのお話で、生徒の部活動の入部率が25%を中々超えないということです。それは横浜旭陵高校の傾向的にそうなのか、今の高校生の傾向的にそうなのか、どうなのかと思いました。自分も大分前ですが、この数字の逆ぐらいの比率で活動等に参加しない人が少ないようなイメージがなんとなくありました。それが生活の多様化なのかわからないですが、意外だなというふうに思いました。

○稲垣総括教諭

生徒による授業評価は、県からの共通項目で質問を投げかけ、それに回答しています。学校独自の問題を追加することも可能ですが、この7項目については全県的に実施しているものというふうに捉えていただければと思います。

○浦野総括教諭

部活動の部分については、単位制の学校ということもあって、一斉に部活動としての活動をするのが難しいこともあり、本校と似たような立場の学校はだいたいこれくらいかと思われます。学校によっては8割を超えるような加入率の学校もありますので、全県的な傾向とかそういうことではありません。

○大和田委員

いろいろお話を伺っていく中で、ICTやサポートティーチャーとか、様々な工夫がされていて、非常に魅力的な学校運営をしているという印象を受けたところです。

ただ一方で、定員割れをされたということで、スクールポリシーも魅力的な内容にはなっているのですが、魅力的な部分をどう発信していくのかというのが、今後やっぱり大事なのかな、というのが話を伺っての率直な感想です。

コロナ禍の中で、様々な取組み、学校行事も含めていつもと違った形で取り組まざるを得ないことがあったかと思えます。先日、当施設でも第三者評価のようなものがあって、このコロナ禍も出口が見えつつあるのだろうという話がありました。これからやっていくことは、アフターコロナの部分に向けた取組みです。これまで取り組んできた、その積み上げてきたものを検証し、アフターコロナに向けて残していくものと、変えていくものごとを整理していく時期に来ている、というご意見でした。こういった学校の様々な取組みをどう発展させていくかということがあるのだろうなと思いつつ、お話を伺ってきました。

また、進路支援の部分では29名の方が進路未定というお話を伺いました。世の中の売り手市場、買い手市場という影響もあるとは思いますが、私どものこの福祉の業界は、慢性的に人手不足が続いていて、業界としての魅力の発信の仕方が、中々上手くいっていない、やはりネガティブなイメージを持たれている業界なのかなと考えています。一方では、中々就職ができない、一方では就職してもらえないというような、この辺りのミスマッチがあるように思います。我々の業界としてもご協力できる部分があるということも感じました。

○中野委員

いつもプラスバンドにふれあい広場に来ていただいたのですが、今年去年とコロナ禍でそれができませんでした。防災訓練も一緒にできれば、ということでもいろいろ考えたのですがそれもできず、来年度何とかできればと考えています。

ICTを使った授業ということで、「楽しかった。」という回答が80%以上というのは、これはちょっと驚異的だと思います。これはただ「絵を見せた。」というだけではなく、先生方のプログラムというのでしょうか、何を使うとか、どういう絵を出したら子供たちにいいのかというようなところをかなり考えて、授業をされているのではないかと感じます。最初の頃は、ICTってどう使うのだろう、何をどう使っているのかわからない、というようなことから始まったと思います。先生方はすごく工夫をされて、少しでも生徒のみなさんにわかるようにということで、だんだん改良されてきたのだなということを感じます。授業に参加するのが楽しいとか、80%近くがそういうことを感じているということは、これは大変なこと、すごいことだと思います。

一方で、「よくわからない。」という生徒に対してのフォローの仕方がどうなっているのか、それからパソコンとかタブレットが授業で使いたいクラスが同じ時間で重なるとあると思うのですが、そのときに端末の数が間に合っているのかどうか、ということをお尋ねしたいです。プロジェクターだと映すだけですが、先生方はいろいろ工夫しておられるみたいで、そこに生徒から出てきた答えを投影するというのもやっていると推測します。そういう点では端末の台数がどのくらいあるのか、充足しているのかどうかということは、気になっていました。

○大久保総括教諭

ChromeBookという、今コマーシャルもしているものがありますが、それが県の方からのリースで約200台あります。それからiPadがやはりリースで40台ほどあります。ただ、リースですから、iPadに関しては、この3月でリースの期限が終わります。iPadは、先生方が使いたいというニーズがありますので、半分ぐらいでもなんとか買い取りができるように、今交渉をさせていただいているところです。

また、本校にはコンピュータ室が3室あります。だいたい1教室に30台ずつぐらいPCがあります。ただ授業で一斉に使うときには、今はまず生徒が持っているスマートフォンを校内のWi-Fiに接続して、生徒たちが自分のスマートフォンで、いろいろな授業で活用するというを基本にしています。ただ持っていない等の事情のある生徒たちのために、今リースできている端末を貸し出して、自分の端末を持っていない生徒が困らないような対応をしています。

神奈川県の方針として、来年度入学生からは、家庭で1人1台端末を購入するという方針になりました。どんなものを買わせるかというのは、各学校で決めて良いということになっていますが、県の方針では「こういうものを買わせてください。」という通知が学校の方に

来ています。その中でできるだけ家庭の負担にならないものということで、本校は先ほど冒頭にお話したChromeBookというものを、令和4年度の入学生には買っていただくということで、今案内をしているところです。そうすると、今は自分たちの持っているスマートフォンを使って接続をするけれども、今度の新入生からは自分の持っているChromeBookで接続をして、様々な授業に活用してもらおうという形になっていきます。来年度から新学習指導要領が始まると同時に、ICTの活用方法も少し変わってくると思っています。キーボードを打つのが苦手など、コンピュータ室のパソコンを使うのは苦手という生徒がやはり相変わらず多いです。ですが自分のスマートフォンを使うのは生徒たちにとっては大変得意なので、授業の中で使い方がわからなくて止まってしまうということはほとんどありません。わからない場合には、担当の教員が一定の説明をしますので、そこはあまり困らないと思います。ただその接続をするためのフォローはすごく手厚くしています。まずWi-Fiに接続する、あとはグーグルクラスルームというアプリがあるのですが、全員が共通で入れなくてはいけないアプリを入れるというときには、教室に4、5人の先生たちが入って一斉に全員に接続させたり、アプリを入れたりする支援をして、授業のときに困らないように、1年間で最初の時期に必ずやっています。今後も、その辺りを含めてできるだけ生徒たちが困らないための体制を整えて、そこから授業をスタートするという形を作っていきたいと考えています。

○渋谷委員

小学校・中学校に行っているいつも私が話しているのは、コロナ禍の最大の犠牲者は、子供たち、児童生徒だと思えるということです。しかし、横浜旭陵高校では先生方が本当にたくさんのことを工夫されていて、頭が下がります。

一つ感じたのは、旭陵祭のアンケートの中の「みんなと一緒にやったら楽しかった。」とか「たくさんの人と話ができて良かった。」という回答です。子供たちがコロナ禍でストレスと戦っていることのまさに裏返しだと思います。因みにうちの近所の公園も最近小中学校の子どもたちがすごくたくさん遊んでいます。本当に見ていてもこちらが楽しくなります。もう目一杯遊んでいて、これはコロナ禍で色々できなくなったからだと私は思います。それで、是非皆が集まる機会を、色々考えていただきたいです。密がいけないので、例えば外でとかですね。グラウンド以外での学校全体を一度綺麗にしようじゃないか等如何でしょう。

あと防災関係で、先ほどのマニュアルを作られたとおっしゃっていました。もし差し支えなければ、どういうものか、お教えいただけると。我々も今この時期のコロナ禍での防災をいろいろとやり方を工夫しているのですが、その参考になると思って、何かの機会でもちょっと見せていただければと思います。

また、小中学校の方ではコロナ禍の影響による休校措置などがあった関係で、不登校が増えたということを聞いています。横浜旭陵高校の方はそのような影響はあるのか、参考までに教えていただきたいと思っています。

○高澤総括教諭

防災マニュアルについては、県の方から指定されているもので、本校独自のものではありません。かなり分厚いものです。

○渋谷委員

ちょっと利用するのは難しいですね。

○浦野総括教諭

不登校と言えるかどうか微妙ですが、リズムを崩す生徒はいます。今まで登校出来ていたのが、休校になって、休校になったとしても当然授業を配信したりとかはしているのですが、参加したりしなかったりということはあります。それから、休校が明けたところで、リズムが崩れてしまっている生徒がいるという報告は何件かあります。一方で、勉強が苦手で、提出物も出せないという生徒が、配信になるときっちりやってくるようになったりとか、その逆のケースもあつたりと本当に様々な生徒がいました。

○渋谷委員

最後に、当自治会のPRをさせてください。地球温暖化対策に取り組もうということで、この令和3年4月に、「旭北・地球を助け隊」を作りました。将来、子供たちの社会になっていくので、我々ができることをやろうじゃないかと考えています。1年間いろいろと専門家の方に来ていただいたり、ゴミ工場の見学をしたりして勉強をしてきました。国とか企業レベルでは、CO₂が何%減ったとかこれを定量的にできるのですが、我々はそういう定量的なことではなく、定性的にそういう関心を持つ人がどれだけ増えるかという雰囲気作りをやっています。

高校生の皆さんも、まさにそういうパワーがあると思うので、もし一緒にできる機会がありましたら是非と思うので、参考にしてください。

○梅木委員

自分の仕事も含めてですけども、この2・3年、コロナ禍になってから仕事の仕方とかも本当に変わりました。社会福祉協議会は全国にあるので、全国のいろいろな人と気軽にオンラインで会議ができたりとか、研修ができたりするようになりました。そういう変化がある中で、横浜旭陵高校はオンラインを先駆けてやっているの、生徒達の理解などもとても高いのだらうと思います。僕らのように後から覚えた人と、また違ったところが出てくると思います。一方で、オンラインのデメリットの部分もちろん感じていますので、先ほどの浦野先生からあった通り、今までに既にいろいろとやらせていただいています、コミュニケーションや、色々な社会的な体験とはまた違う形で、一緒に協力しながら補っていけるようなことが、地域と共にできればいいと思います。

一つお尋ねしたいことがあります。今日頂いた資料の中にも進路概況がありますが、ICTの活用が進んでいくにつれて、生徒さん達の進路の傾向が変わったなどということはあるのでしょうか。

○難波総括教諭

進路に関して変わったことは、私が担当している4年間の中では、ないというのが正直なところ。個人的に端末を活用するようになった生徒がいるかもしれないのですが、それを通じて何かにつながった、ということまでは確認できません。元々ゲームが好きだったり、デザイン系に進みたいという生徒が、iPadを使ったりということはあります。大きく様変わりしたとは捉えていません。

○梅木委員

来年度もまたどうなるかわからないですが、また浦野先生とご相談しながらいろいろ企画を練って、こういう状況下でもできるようなことを一緒にしたいと思います。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

○海川委員

いつもここに来て大久保先生の話の聞くと、授業が楽しそうで、できれば私も横浜旭陵高校の授業を1度受けてみたいと思うぐらい感心しています。

先ほど難波先生から、少し自分の目標よりも高い大学に行っても、成績がいまひとつという生徒がいたと聞きました。前回のときも、就職したいけどちょっと合わないので辞めて退職したという生徒がいて、その企業に謝罪したという話を聞きました。こういう情報交換は、学校と企業がやり取りをするものなのではないでしょうか。

○難波総括教諭

そういう情報交換をやっていない学校も多いです。いい話は多分向こうの企業の方から「頑張っています。もう次はリーダーです。」というような話は、就職先の企業からあります。個人情報との関係があるため、退職や休職している情報については、企業から情報提供されるのは、本当に稀です。上級学校も、個別面談をこちらからして、具体的な名前は出せませんが、「何年度の入学生、この入試で入りました。この生徒については、今大学の成績については、このような状況です。」という話は、いただけるケースは結構あります。ただ私としては、追跡は欠かさないようにしています。少なくとも1年は可能な限り、どういう状況かということはある程度把握しておかないと、企業が学校訪問して来ていただいたときに、「実は昨年入った生徒が、5月に辞めました。」という話をされて、ほとんど学校がそれを把握していないケースがあったりするのです。逆に話していただける範囲で、私の方からお聞きすることが多いです。

○海川委員

旭陵祭のアンケートについて、「頑張ったこと」という項目に「ごみ捨て」「掃除」と書いてある。こういう表現はちょっとおかしいのかもしれないですが、かわいいと思うのです。今の子どもたちが、「ごみ捨て」「掃除」と表現するっていうと、とても素晴らしいことだと思うのです。私がPTAやっていたとき、レクリエーション大会のときだと思いますが、男の子数名、パッと見はやんちゃな感じの男の子たちが、「すみません、ハサミとごみ袋貸して下さい。」って来たので、「何するの?」と聞くと、「ゴミ集めてきます。」って言ってきてくれました。「これをお願い。」って言ったなら、本当にゴミを拾ってきてくれて、そういう気持ちを持っていることがとても素敵だと思うので、ぜひ旭陵祭などの機会を利用して、そういう気持ちを持てる生徒に成長して欲しいなと思っています。ぜひ旭陵祭は、学校ができる限りのことを、やらせてあげてほしいと思います。旭陵祭の時の生徒は、目が輝いていて、女の子のドレスとかっていうのはもう代々受け継がれている姿だと思います。それにきくと憧れている子はたくさんいると思うので、そういう気持ちを大切にしていってほしいと思います。

○副校長

実はまだ校長にも報告してないのですが、昨日旭区役所地域課の方から連絡がありました。駅で本校生徒が、ごみ拾いをしてくれていました、という報告でした。結構お叱りのお電話をいただくことも多いのですが、心ある生徒はそういうところで、地域のためにゴミ拾いをしたりしているという話を聞いて、誇らしく思ったということをご報告させていただきます。

○海川委員

是非そういう子は思いっきり誉めてあげてほしいです。

○前田委員

この2年間本当にこのコロナ禍で、PTAもそうですが、先生方も本当に手探りの中本当に一生懸命やっていた、っていうのはPTAの保護者からも、一般の保護者からも聞いています。大変な中、本当にありがとうございます。令和4年度も、その2年間培ったものがまた活かされていくと思うので、PTAとしても先生たちのお役に立てるようにやっていきたいです。もちろん主は子供たちですから、子供たちのためにやっていけるようにPTAとしても取り組んでいきたいので、よろしくお願いします。

○副校長

以上で、グループの方の報告もさせていただきました。資料には、年次と各教科の目標と評価に関するページがありますが、そのところはお読みいただければと存じます。申し訳ございませんが、どうぞよろしくお願いいたします。

(3) 令和3年度の指定事業報告

○大久保総括教諭

資料の最後のところに、横浜南西地域研究成果発表会について載せて頂いております。

おかげさまで、ようやく指定の3年目を無事に終えることができまして、平成25年度から3年間、そして28年度から3年間、そして平成31年度から3年間ということで、9年間の指定をいただいてきましたが、ある一定の成果が出たということで、ICTの指定はこれで終了ということになります。

先ほど稲垣からも話がありましたけれども、PTAの方からプロジェクター、それからプロジェクターカートとご寄付いただきまして、本当にありがとうございました。全ての教室にプロジェクターカートとプロジェクターとマグネットスクリーンが常設できるというのは、もう以前から私達の夢だったのです。それがようやくこの指定事業の終わりのところで実現できて、令和4年度からはとにかくプロジェクターカートの鍵とパソコンかChromeBookを教室に持っていけば、授業ができるという状態になったということは、本当に幸せに思います。

この横浜南西地域研究成果発表会というのは、3年目のまとめの発表ということで、これは横浜の南西地域の学校が全部集まる中で、12月24日に発表してきた時の資料です。1月にはオンラインではありましたが、神奈川県全体の方でも発表をさせていただきました。本日は、その内容を概略だけですが、お伝えできればというふうに思っています。

この3年間の目標を最初に載せてありますが、先ほどお話いただいたように、最初の平成25年度のときには、「ICTって何よ。何するのよ、そんな大変なことを何でやるのよ。」っていう先生方がたくさんいる中でのスタートでした。その中で、本校の合言葉は「1人の10歩よりも、50人の1歩」、一人誰かが突出してやればいいのかではなくて、全員がちょっとずつでもいいから、みんなでICTの授業ができるようになるよ、と言うところをずっと言い続けた9年間でした。

そういう中で、ICTを使った授業というのが、やはり特別なものと思う先生方が多いのですが、子供たちが例えば授業するのに、シャープペンシルがあって、ノートがあって、それと同じように、ICT機器も一つの授業を受けるためのツールになる、そういう授業を展開していきたい。だから特別なものではなく、当たり前前のツールとして活用できるような、そういうような授業を展開しようということが大きな目標でした。その中で、勉強が苦手な子たちも、ICTを使ったわかりやすい授業を受けて、知識や技術を身につけてもらいたい。そして、さらに前回の指定との大きな違いは、「情報活用能力育成」ということが、一つのキーワードになりました。スマホとかを自由に使えるような子供たちなのですが、それを使いこなせないと言いますか、逆にスマホに使われてしまっている。先ほどSNSのマナーに関する生活指導の件もありましたが、そうではなくて、そういうICT機器を使うことによって自分の課題解決に役立てられるとか、考える一助にできるとか、そういうような力も身に付けられるような、そういう目標を立てた3年間でした。

この3年間の中ではもちろん研修をやったり、他校さんの公開研究授業に参加させていただいたり、なんていうところもありましたけれども、やはり一番大きな取り組みは日常の授業の中でのICTの活用の授業、それもこちらから一方的にやる授業ではなくて、子供たちが自分でその機器を活用して、自分で考えを整理したりとか、発表したりとか、課題解決をした

りとか、そういう場面で積極的に活用したいと思って取り組んで来ました。また、BYODというのは、先ほどお話した自分のスマホを授業に活用するという形で、これも最初に県からBYODの研究をなさってと言われてきたときに、やっぱり「そんなの無理だよ。」っていうのが先生方の考えだったのですが、少しずつそれが広まって、今はもう自分たちのスマートフォンを学校のWi-Fiに接続して、授業に使うのは当たり前、そのようなところまで行ったのは、大きな成果だろうというふうに思っています。

資料の裏側に、「ICTを活用した主体的・対話的で深い学び」を載せさせていただいております。この「主体的・対話的で深い学び」というのが、新しい学習指導要領で目指していく学びでありまして、これを本校でICT機器を使う中で、どういう場面で活用して、どういう場面でその学びが達成できるのかというのを図式化したものになっています。これは主体的とか、これは深いとかということではなく、日頃の取り組みの「この発表はコミュニケーションをとることにもなるだろう、これは対話的になる」、というような形で、整理したものを載せています。

また、ICT利活用が得意な先生ばかりではありませんので、支援体制の充実ということは欠かせないところであります。この支援体制の充実というところで、3点挙げておりますけれども、本校の先生方は非常にフットワーク軽く、色々なところに協力をしてくださる先生方が多いです。そういうところがまたあの支援体制の充実にも繋がっていると思っています。

コンピューターチームというグループ横断の先生方が、先ほど申し上げたように200台の機械の管理や、先生たちのサポートですとかを積極的にやってくださっています。また業務アシスタントの先生が1人いるのですが、メンテナンスは一手に引き受けて下さっています。そういうところで、上手にバランスが取れて多くの先生方の支援体制に繋がっています。

それから、今回の指定事業の中で成果指標を掲げておりまして、資料について説明します。「思考力、判断力、表現力等を高めることができたと思う生徒の割合が70%以上である。」これは概ね全ての年度で7割を超えておりまして、ここに関しては十分達成できたというふうに判断させて頂いています。それから「生徒による授業評価の中で取り上げた質問項目の肯定的な回答の割合が3年間向上し続けている。また、高い割合を維持し続けている。」という点ですが、「毎時間の授業や単元の初めに学習の狙いを示した。」「毎時間の授業や単元学習の後に学習したことを振り返る機会があった。」というところに着目しました。ICTの授業というのは、ただわかりやすく画像を見せればよいということではなくて、生徒が学びを定着させるには、授業でインプットしたものをきちんと自分で整理して、その情報をアウトプットするっていうことが、定着に繋がるっていうのが本校の考え方なのです。ですから、そういう中で、ICT機器を使った授業で、最初に狙いを示したりとか、最後のところで振り返りをしたりとか、そういうところがきちんと実現できるということが成果達成の一つの指標になるだろう、ということでこの問題を設定しました。結果は、「生徒による授業評価」をご覧ください。こちらについても十分達成できたものだろうというふうに考えています。それから「ICT利活用事業を実施している科目の割合が80%以上である。」、こちらについても、今年度の科目数が69科目中66科目で実施をしているということで、これも9割以上ということで、十分達成できたと判断しています。

主な成果、これはやっぱり生徒がどれだけ変わってきたかということだと思っていますが、資料にも書かせていただきましたが、やはり考えようとする力がついてきた、それから発表で他者にどう伝えていけばわかるかということを考えて、例えば発表資料を作るようになってきました。またコミュニケーション能力、それから課題解決能力、これはもちろんまだまだ不十分ではありますけれども、それでも3年間の中で、1年生のときから見ていると、3年になるとやはりこれだけ成長したのだな、と思える形になってきていますので、ここも十分成果が達成できているのではないかと考えています。

この発表の資料を作る際に、校長から必ずこれだけは、と言われたことがあるので、ここでもちゃんと言わないといけないと思います。本校校長は、1日1回は必ず全ての授業を見て回っています。全部の授業の教室を全部覗いて、この3年間というところで感じていることとして、やっぱり勉強が苦手だとどうしてもわからないことがあると、机に伏せてしまうということがあるのですが、ICTを使って授業をすることによって、子供たちが顔を上げて、先生たちの授業を聞くようになってきました。積極的に関わろうという意欲を持つ子たちが増えてきました。だからそれを毎日教室に見に行く中で、本当に実感しているから、これだけは絶対喋ってくださいと言われたので、この発表会でもお話ししました。

これで指定事業は終わるのですが、このICTを使った授業というのは、歩みが止まることはないというふうに思っています。先ほど申し上げたとおり、新しいステージにこれから入っていきますので、その新しいステージの中で、また先生方と協力しながら、さらにICTを利活用した授業を推進していければと思っています。

○副校長

それでは、グループ目標の達成状況を報告させていただきました。学校運営協議会の委員の皆様の方からですね、今年度の本校の取り組みや報告等につきまして、何かご意見やご提言等ありましたら頂戴したいと思います。

先ほどずいぶんグループの報告のところで意見や質問をいただきましたので、そのところを含めまして、また提出していただいたものを含めまして報告書に記載をさせていただき、今年度の報告をさせていただきたいと思います。

(4) 校長より

○教頭

今年度で教頭としては4年目になるのですが、そのうちのほとんど2年半かかりまして、新型コロナウイルス感染症の関係の学校内での対応に追われています。本来の業務が中々出来ていません。本校は先生方が非常に精力的に動いていらっしゃいますし、生徒への指導が行き届いていますので、そういった面では安心して取り組んできております。その中で、特に最近、県や国の方から、新型コロナウイルス感染症の関係で大きく変わっているところとしましては、やはり今まででしたら、新型コロナウイルス感染症の陽性者が本校で出たという状況であれば、濃厚接触者の特定を始めなさい、そのためにはまず学校の方は一時的に休校にしなければいけないというような措置が今まで取られてきた方法だったのですが、昨今はそうではなくて、今は教育活動を継続したまま、生徒たちの方に罹患者に関わるような濃厚接触者がいれば特定しなければいけないという方向にかなり変わってきております。そのような形で教育活動を継続しながらも、新型コロナウイルスの感染症の動きを、同時並行でやらなければなりません。ということで、先生方がかなり疲弊している時期もございました。今現在もコロナ禍が収束に向かっているわけではございませんので、忙しい時期、同時にそういった業務で、さらに今回入試のからみもございました。いろいろと地域の方々や、あとは学校内での取り組みっていうのがすごく大変な1年だったと思います。

来年度も引き続き、この状況が続いていくような感じもございまして、また4月や5月に入りまして、人出がかなりまた多くなってくると、またこのような形の繰り返しがある中で、やはり教育活動っていうのは、委員の方々にいただきましたご意見をもとに教育活動の充実っていうのを、さらに高めていかなければならない、というように考えております。

また、昨年1年間を振り返りまして、近隣の中学校からもお呼びがかかりまして、学校説明会等で本校の特色というものを何件か行ってお話はしているものの、中々本校の良さっていうのが伝わっていない部分もあるかと思っております。そこも工夫をしながら、来年度もしっかりと頑張っていきたいと思っております。次年度に向けまして、どうぞご協力をよろしくお願いいたします。

○校長

委員の皆さん、ありがとうございます。ICTアンケートでありましたが、本当に授業を受けて、楽しく学習ができた。これは裏を返すと、授業がわかるということだと思います。授業がわからなければ、楽しく学習はできないと思います。ですから、私が見ている顔を上げている、要は授業がわかっている、授業が理解できて本当にわかった、できたっていうのを生徒たちが感じながらやっています。それは、ICTの利活用の中で、特にこの3年間、メリットは生かしていく、デメリットを外していく、先生方一人一人のその工夫ですね。それが生徒に伝わった結果として現れているというのを強く感じます。

また、文化祭のアンケートの中にもありましたが、日常生活にも反映されてきています。だから、浦野が言いましたけど、3年前は委員会活動に生徒が集まらなかったですが、今は全員集まります。

ICTを使うと顔を上げざるを得なくなります。学校の生徒の様子は変わりました。地域連携や部活動、地域連携、行事などもアフターコロナ、ポストコロナを見据えてやっていきたいと考えています。

○その他連絡事項（副校長より）

委嘱についてご案内申し上げます。委嘱期間は2年間です。来年度も継続してお願いいたします。異動などもあると思いますので、継続が不可能な場合は県の形式の辞職願の提出をお願いします。その後、年度途中になりますが、新たな方を委嘱させていただきたいと思っております。なお、県の規定変更により、次年度以降は任期1年となります。

運営にご協力ありがとうございました。これにて閉会いたします。